

令和6年7月25日
青森市経済部交流推進課長

JICA 海外協力隊 2024 年度第1次隊出発者 市長表敬訪問

独立行政法人 国際協力機構（JICA）が実施する国際協力事業において、2024年度第1次隊として出発する青森市出身の JICA 海外協力隊員が下記のとおり市長を表敬訪問しますので、取材・報道をお願いします。

日時

令和6年7月29日（月）午後1時00分～1時15分

場所

青森市役所本庁舎 2階 庁議室

訪問者

JICA 海外協力隊員	佐々木 暢（ささき とおる）様
JICA 東北 所長	花立 大民（はなだて だいみん）様
JICA 東北 青森デスク	阿部 翔太（あべ しょうた）様
青森県青年海外協力協会	大賀 重樹（おおが しげき）様

派遣先

ケニア ケリチョ更生学校

プロフィール等

別紙参照



JICA海外協力隊プロフィール 別紙（自己紹介シート）

派遣前地方自治体表敬訪問（出発報告）を行うため、以下の情報を記入してください。

※全項目、全員入力必須です。

派遣国	ケニア	職種	青少年活動	隊次	2024年度 1次隊
-----	-----	----	-------	----	------------

フリガナ	ササキ トオル
氏名	佐々木 暢

協力隊参加動機、活動内容と抱負

私は過去のインド旅行で現地に住んでいる方々の力強い生き方に感銘を受け、私もそんな発展途上国の現場で共に生活してみたいと思い、この度、JICA海外協力隊に応募しました。配属先はケニアの「ケリチヨ更生学校」という矯正施設で矯正教育に従事します。これまで、日本国内の刑務所や少年院といった矯正施設で培った勤務経験を生かし、現地の方々が望む形での支援を提供し、共により良い未来を作れればと考えております。

派遣に向けて取り組んでいること

派遣に向けて取り組んでいることは、まず、公用語の英語と国語のスワヒリ語の勉強に力を入れています。英語は国際的なコミュニケーションに欠かせないため、習得しておく必要があります。また、スワヒリ語は現地の言語であり、現地の人々とのコミュニケーションや文化理解に役立つためです。

次に、現地の文化や習慣を学び、現地の生活に少しでも早く馴染みたいと考えています。協力活動の円滑な進行や地域住民との信頼関係構築に不可欠です。食べ物や服装、挨拶の仕方など、現地の慣習を理解することで、より良い協力活動をしていきたいと考えております。

最後に、日々変動していく国際情勢のなかで、自分ができる支援とは何かについて学んでいます。特にJICAの現地で活動されてきた先輩方の話は貴重なものでした。経験豊富な人々からのアドバイスや知識を積極的に取り入れ、より効果的な支援を提供できるよう努めています。

派遣中、任国にてPRしたい事（例：日本文化、食文化、地元の名産品や観光地等）

私がケニアでのJICA海外協力隊派遣期間中にPRしたいことは、日本の多彩な観光地を紹介することです。東京や大阪、京都以外にも、東北のみちのくには豊かな伝統と文化が息づく素晴らしい景色が広がっています。特に青森県に焦点を当てると、ねぶた祭りや弘前の桜、津軽の雪景色など、四季折々の美しさがあります。これらの情報を現地の人々に積極的に伝え、日本の多様性と魅力をアピールしたいと考えています。さらに、将来的には人事交流などを通じて、ケニアと日本の間で相互理解と友好関係を深める機会を創出できれば素晴らしいのではないかと考えています。

協力隊の経験を活かし、将来地元においてどのような活動・仕事・社会貢献等に取り組みたいか。

又は、（現職参加の場合）帰国後自分の職場に戻った際、特に取り組みたい事について。

帰国後は、引き続き日本の少年院での勤務を予定しています。ケニアで学んだ経験を十二分に活かし、矯正教育に再び向き合っていきたいと考えております。また、日本の国際化や多様化が進む中で、矯正の世界も変革を迫られています。そんな変革の流れに対し、自らも柔軟に対応し、時には新たな提案ができるような力や考え方を今回の派遣を通じて身につけたいと考えています。